

平成29年度第2回
犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議の概要

○日時：平成30年1月15日（月）13時30分～15時30分

○場所：三重県合同ビル G301会議室

○出席委員：

上野会長、南部副会長、黒田委員、宮西委員、吉本委員、藤原委員、山本委員、森永委員、森岡委員、中尾委員、柄谷委員、橋爪委員、北村委員、宮路委員、堀委員、井戸畑委員（16名）

○事務局側：

富田環境生活部次長、金川くらし交通安全課長、西村補佐、奥野主幹、玉田主査、中村主査、野呂主任

○報道関係者：

なし

○議事概要

1. 開会

- ・環境生活部長あいさつ
- ・新任委員等の紹介

2. 報告事項

(1) 県内の犯罪情勢等について（警察本部）

～資料1により説明～

(2) 安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラムの推進状況について（環境生活部）

～資料2-1 資料2-2 資料2-3 資料2-4 により説明～

3. 協議事項

安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム平成29年度の総括」

(案)（環境生活部）

～資料3により説明～

【意見交換・質疑応答】

(委員)

「県民や事業者により展開されたアクション」については、よくわかったが、「多様な主体間でのネットワーク構築の事例」があれば教えて欲しい。

(事務局)

自主防犯団体同士が連携した事例として、伊勢市内の自主防犯団体連絡会が

ある。自主防犯団体40団体同士の連携に加えて、市や警察とも連携し、商業施設における広報啓発活動を実施している事例である。

また、警察署単位の「防犯協会」と「地域（自主防犯団体）」が連携し、一緒に青パトに乗って、定期的な広報啓発を行っている事例などもある。

（委員）

「座談会を各地域1回の開催で、3年間で全地域で開催しました」というのは、PDCAを回していないのではないかと。座談会を開催した地域で出来たネットワークをもとに、もう一度、同じ地域で座談会をしていくことが、PDCAを回すということだと思う。

（県は）今後、座談会を市町に引き継いでいくように感じたが、「県が座談会をどういう仕組みでやるのが良いか」、又は、「市町にどのように引き継いでいくのか」ということを考えて、やっていくべきだと思う。

アクションプログラムは平成31年で終わるのではなく、それ以降も続いていくと思うので、将来を見据えて座談会をやりたい。

座談会は、非常にいい取組だと思う。

重点テーマの活動指標は、数値目標だけであるが、個人的には交通事故死傷者数とか、防犯ボランティアの団体数は、それぞれ地域性があるので、三重県全体の数値だけでなく、「この地域でこのようなことを集中的にやりましょう」といったほうが、目標を達成しやすいし、見た目にもいいのではないかと。

（事務局）

座談会は、地域の見知らぬ人同士、市町などが集まって、「こういう人がこういうことをしている」という顔合わせと、（地域に密着している）市町や、地域の方を含めたネットワークの構築などによる関係を深める「きっかけづくりの場」として考えている。（県が）座談会を既に終わった所にも働きかけているところであるが、委員の意見を真摯に受け止めて、進めていきたいと思う。

（重点テーマ活動指標の目標値で）地域別の数値を総括案に載せることについては、既に座談会でそれぞれの地域の特性について情報共有しているところであるが、今後の検討材料としていきたい。

（委員）

アクションプログラムによって、県から火をつけていただき、ありがたいと思っている。その後、進めていくのは私たち地域の役目だと思う。いつまでたっても、県や警察にお願いするのではなく、私たち自身が計画・実施していくことが重要。

例えば、伊勢市では、自主防犯団体（警察の登録上）41団体いるが、この41団体でPDCAを回していくことが大事。

他の地域ではアクションプログラムについて、浸透が図られているか。

伊勢では、まだまだ浅いが、確実に動き始めている。小学校単位でのまちづくり協議会では、その下に「安全安心まちづくり委員会」がある。この委員会を中心に、昨年4月から、月1の会合の後、午後8時30分から約1時間、二手に分かれて、夜間赤色灯を持ってパトロールを行っている。このきっかけは、アクションプログラムによって、火をつけていただいたからである。キックオフ大会から2か月後の4月から行っている。

このように地域の方でアクションプログラムを進めていかないと、本当の意味で定着を図れない。いつまでも、警察や県に頼ってはいけない。

「自分たちのまちは、自分たちで守る」のが当たりまえで、口先だけでなく、実践行動、アクションするのが一番大事。

今後も、推進座談会、出前講座、リーダー養成講座などの機会に、アクションプログラムを前面に出していただきたい。自主防犯団体の集まりがあれば、そこでどんどんPDCAを回していくことが大事で、止まることなく進めていきたい。

(委員)

座談会を何のためにするのか、分かりやすい文書で開催案内をもらいたい。また、座談会の年間スケジュールを教えてほしい。

(事務局)

県内の市町や関係団体と綿密に連絡を取り座談会を行っているところである。今年度は試行的な実施であったが、今後は、座談会開催の決まった地域から順次皆さんにお伝えしていきたい。

(委員)

座談会は、委員も入れるのか。他の地域のことを勉強したいので、出来れば座談会に参加したい。

(事務局)

座談会の目的の一つが横展開であり、その地域の効果事例を、他の地域で広めていきたいと考えており、委員の座談会参加は可能である。